

平成25年度
群馬県図書館協会会報

No. 8 (平26.3.31)

平成25年度の群馬県図書館協会の活動をご報告いたします。

- 1 第1回代議員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1

- 2 第11回群馬県図書館大会報告・・・・・・・・・・P2～3

- 3 研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4～9
 - (1) 図書館(室)職員初級研修・・・・・・・・P4
 - (2) 図書館(室)職員実務研修・・・・・・・・P5～7
 - (3) 図書館(室)職員専門研修・・P8～9

- 5 各加盟団体活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・P10～17
 - (1) 群馬県公共図書館協議会・・・・・・・・P10～12
 - (2) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会・・・・P13
 - (3) 小中学校教育研究会学校図書館部会・・P14～15

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体

| |
|---------------------|
| 群馬県公共図書館協議会 |
| 群馬県大学図書館協議会 |
| 群馬県高等学校教育研究会図書館部会 |
| 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会 |
| 群馬県立図書館 |

平成25年度第1回代議員会報告

平成25年6月11日（火）、県立図書館3階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第1回代議員会が開催されました。

はじめに、入沢会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

議題

1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成24年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成24年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成24年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成25年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成25年度群馬県図書館協会予算（案）について

2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成24年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成24年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成24年度会計監査報告について
- (4) 平成25年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成25年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

3 監事の指名について

高崎経済大学附属図書館 内田 睦氏

4 第11回群馬県図書館大会について

事務局から提出され承認されました。

第 1 1 回 群馬県図書館大会報告

未来につなげる図書館 ～これからの図書館の方向性を考える～

日時：平成25年11月28日（木）10：00～16：30
場所：玉村町文化センター
日程、内容：

- 1 式典（10：00～10：30）（玉村町文化センター 大ホール）
 - (1) 主催者挨拶 群馬県図書館協会長
入沢 正光（群馬県立図書館長）
 - (2) 来賓祝辞 群馬県教育委員会教育長（代理）
森田 勝也（群馬県教育委員会生涯学習課長）
 - (3) 開催地代表挨拶 玉村町長（代理）
片山 壹晴（玉村町文化センター長）
 - (4) 後援・加盟団体紹介〔略〕
 - (5) 表彰式
 - ①優良図書館群馬県教育委員会表彰 大泉町立図書館
 - ②群馬県読み聞かせボランティア顕彰
 - ・おひさまクラブ（前橋市）
 - ・読み聞かせボランティア にじの会（高崎市）
 - ・島っ子の会（伊勢崎市）
 - ・館林市立第十小学校読み聞かせ図書ボランティア（館林市）
 - ・オリーブ（邑楽町）
 - ③優良読書グループ表彰伝達 前橋あすなる読書会（前橋市）
 - ④全国公共図書館協議会表彰伝達 関口 裕子（群馬県立図書館）



2 記念講演（10：30～12：00：大ホール・参加者329名）

演題：「本に恋して」

講師：横山 秀夫氏（作家）

概要：会場を玉村町文化センター大ホールに移し、329名の方々が参加する記念講演会となった。毎日学校図書館に通い『図書冠王』と呼ばれた少年期の思い出。物語こそが事実を積み上げた真実よりも、人間の心にきちんと居座り、届くのではないかと思うようになった12年間の新聞記者時代。そして、会社を辞め一個人として過ごすことで、「組織体の功罪を描く小説を書くことができた」というデビュー秘話。「どんな仕事でもとことん突き詰めないと本当の仕事にはならない」という作家活動について。図書館全体で何かしよう



と考えるよりも「司書のスター性を確立すること」が最も大切だと述べられた図書館の在り方などを、ユーモアを交え、終始和やかな雰囲気の中で、お話ししていただいた。講演会に参加された方々からは、「とても分かりやすく楽しく聞くことができた。充実した時間だった」「作家という立場から図書館に対する声を直接聞くことができて良かった。」「質問にも気軽に答えてくれ、気さくな人柄に感心した。」等の好意的な感想が多く出されたすばらしい記念講演会であった。

3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

（1）第1分科会（大ホール・参加者48名）

「電子書籍・デジタルライブラリーの現状とこれから」

・群馬県立図書館地域企画係長の橋爪文夫氏から「群馬県立図書館デジタルライブラリーの立ち上げについて」の事例報告を、高根沢町図書館長の矢野誠一氏から「電子書籍と図書館の取り組み～高根沢町図書館の導入事例～」の事例報告を、千代田区立千代田図書館 サービス部サービス管理チームリーダーの中田宏氏から「電子書籍サービス導入から現在までの取り組みについて」の事例報告をしていただいた。また、分科会検討委員からは「明和町立図書館の電子書籍を見学して」の報告があり、その後、フロアトークを行った。参加者からは、「電子書籍の貸出サービスについて、利用者等に関する具体的な説明があり、大変分かりやすく参考になった」という声が多かった。



（2）第2分科会（小ホール・参加者40名）

「児童・青少年に向けた新たな情報発信

～ホームページ・ツイッター・フェイスブック・ブクログ～」

・まず、国際子ども図書館児童サービス課企画推進係長の橋詰秋子氏から「公共図書館員のための『インターネットから使える国際子ども図書館』」の講義を頂き、東京都立中央図書館企画経営担当係長の曾根綾氏から「東京都立図書館におけるTwitter/Facebookの取り組みについて」の事例報告を、群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館学術情報管理系の柘植久美子氏から「学生への情報提供サービスの一環として－Twitterとブクログ－」の事例報告をしていただいた。その後、補足説明・質疑応答を行った。参加者からは、「これからソーシャルメディアを活用した積極的な情報発信をしていきたい」「今後の業務に生かしていきたい」という声が聞かれた。



（3）第3分科会（視聴覚室・参加者・52名）

「利用者の潜在的な要求を刺激する」

・高崎市立吉井中央中学校学校図書館指導員の小柳聡美氏から「魅力ある案内による日常としての読書推進～その子のための1冊をさがす旅～」の事例報告を群馬県立渋川高等学校司書専門員の宮崎好久氏から「高教研図書館部会司書研修会[利用者教育分科会]の取り組み」の事例報告を、群馬県立富岡高等学校司書専門員の柏木彰子氏から「文化祭におけるビブリオバトルの実践」の事例報告を、群馬大学



総合情報メディアセンター理工学図書館理工学情報係長の多胡和泉氏から「利用者が望む施設を創る－理工学図書館改修にあたって－」の事例報告をしていただいた。質疑応答の後、参加者を8つのグループに分け、グループ討議（意見・情報交換会）、グループ討議表を行い、講師まとめを行った。参加者のアンケートには、「大変参考になった」「運営がスムーズだった」「帰ってから職場でも話したい」等好意的な意見が多く寄せられた。

平成25年度図書館（室）職員初級研修

日 時：平成25年5月21日(火) 10時00分～16時00分

場 所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：65名

講 義：「ようこそ図書館へ」

元笠懸図書館長 青木 貴美子 氏
「こどもたちへのサービス」

元藤岡市立図書館 緑埜 智恵子 氏
「県立図書館の課題解決型サービスについて」

県立図書館 市村 晃一郎 氏
「レファレンスはじめの一歩」

富岡市立図書館 永井 宝 氏



《概要》

図書館、図書室に新たに採用、異動になった職員（臨時職員を含む）を対象に図書館で直面する様々な問題点や、図書館が抱えている課題、現状などを、県内の図書館員が分かりやすく解説した。

アンケートを実施し60名から回答があり、研修は参考になった（60人）、全体の時間はちょうどいい（50人）。また、それぞれの講義に関しても「参考になった」と回答している。

《参加者の意見・感想》

- ・「ようこそ図書館へ」では、図書館員の心構えや利用者への対応、用語集など、初めて図書館に勤務する立場としてとても参考になった。
- ・図書館職員としての知識（知識のつけかた）、心構え、これからの図書館がやらなければならない事等、幅広く学べた有意義な講義でした。
- ・実体験に基づく講義であるため、内容が具体的でわかりやすかった。
- ・レファレンスについて、具体的な話がもう少し聞きたい。図書館外でも自分で情報収集も必要なことなどの情報、多方面からレファレンスの方法はありがたかった。
- ・どの講義も大変参考になった。講師の方が時間を気にしながら話される場面があったので、講義の時間がもう少しあってもよいと思った。

《今後の研修希望》

- ・図書館のあり方が考えなおされる中、より多くの職員が新しい発想を生み出していくための研修。
- ・初級者からベテランを交えた座談会形式で個々の図書館の問題解決に活かせるような研修を受けたい。
- ・相互貸借などの便利なサービスの利用方法など具体的に教えてほしい。
- ・初任者研修に参加した人同士が交流できる時間があると今後の連携に役立つと思う。

《研修の担当者から》

1日で図書館のすべてのことを学ぶのは、大変なことだと思うのだが、参加された方たちが真剣な眼差しで講師の話に耳を傾け、メモを取り多くの情報を手に入れようとしていたことが印象に残った。この研修を通し、地域住民のために役に立つ施設づくりを進めてもらえたら幸いである。

平成25年度第1回図書館（室）職員実務研修

日 時：平成25年11月8日（金） 10時00分～16時00分

場 所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：51名（講義①48名、講義②38名）

講 義：講義①「公共図書館の学校支援」 堀川 照代 氏（青山学院女子短期大学教授）

講義②「図書館における児童サービス」 秋吉 順子 氏（元・調布市立図書館司書）

《概 要》

講義①「公共図書館の学校支援」

講師：堀川 照代 氏（青山学院女子短期大学教授）

学校現場において変化する「学び」に対応するための公共図書館の学校及び学校図書館支援について講義が行われた。新しい指導要領が実施され、学校支援や児童サービスの分野においても、新しい時代に応じた図書館サービスが求められている今、それらの要求に応えるために、図書館員としてどのような対応をとるべきか、海外の例や先進的な実践例を紹介していただきながら、公共図書館による様々な学校支援の方法についてお話しいただいた。



《参加者の意見等》

「公共図書館員としてまだまだできることをしなくてはならないことが多いと実感した」など子供たちの力をはぐくむための先進的な支援の方法について、熱心に聞き入り、公共図書館の学校支援の方法を確認できたという感想も寄せられた。一方で、「学校図書館の現状がよく把握できていないので、どう取り組んで良いのか分からない」「地域とのつながりは大切だけれども一歩進むためには壁があるのではないか」のような公共図書館の学校連携に対する課題も指摘された。

《概 要》

講義②「図書館における児童サービス」

講師：秋吉 順子 氏（元・調布市立図書館司書）

子どもの本を選ぶ、子どもに本を届ける、レファレンスの実態などについて、レファレンスの課題に取り組みながら、図書館における児童サービスのスキルの向上のための研修を行った。講座前半では、図書館における児童サービス全般について、実例をもとに講義を行った。講座後半では、提出された課題について一つ一つ丁寧にコメントしていただきながら、適切な児童サービスについてお話しいただいた。



《参加者の意見等》

「具体的な内容の講義だったので、すぐに応用できそうなことがたくさんうかがえた」「明日からの課題が見つかった気がします。早速、本棚の整理工夫をします」「絵本の書架整理が楽しくなりそうです」など、分かりやすいお話で大変参考になったという意見が多数寄せられた。

平成25年度第2回図書館（室）実務研修

日 時：平成25年12月13日（金） 10時00分～16時00分

場 所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：66名（講義③51名、講義④60名）

講 義：講義③「障害者理解と図書館サービス ―発達障害者の理解―」

稲岡 隆之 氏（県発達障害者支援センター次長）

講義④「レファレンス・サービスの調べ方と展開」

高田 高史 氏（神奈川県立川崎図書館科学情報課主査）

《概要》

講義③「障害者理解と図書館サービス ―発達障害者の理解―」

講師：稲岡 隆之 氏（県発達障害者支援センター次長）

ADHD（注意欠如・多動性障害）や自閉症スペクトラム障害など発達障害に対する正しい知識を知ることによって発達障害者に対する適切な支援ができるよう講義を行った。また、図書館職員からあらかじめ出された発達障害者への図書館サービスについての質問にお答えいただき、障害者サービスの課題を共有できたとともに、適切な対応についても知ることができた。



《参加者の意見等》

「障害を持つ方への理解を深められれば、良い対応ができると思いました」「本人や家族だけでなく、彼らの生活圏で彼らを受け入れる様々な立場の人の理解が大切だと思います」「『普通』ということにとられすぎて想像もつかない心の世界を持った方の存在に全く気が付きませんでした」など障害者を理解するための参考になったという意見が寄せられた。

《概要》

講義④「レファレンス・サービスの調べ方と展開」

講師：高田 高史（神奈川県立川崎図書館科学情報課主査）

インターネットによる検索が容易になった現在、これからの図書館員に求められるインターネット時代のレファレンスサービスについて、レファレンスの事例を交えながらの分かりやすい説明であった。また、「社史」の活用や図書館でのイベントの催し方も話していただいた。

《参加者の意見等》

「『使われれば使われるほど資料の価値は上がる』などハッとする言葉がたくさんあり、心に残りました」「レファレンス時の視点が変わった」「いかにして多くの人に本を手にとってもらえるか、アイデアをたくさん教えていただいた」など図書館員ならではの調べ方のテクニックを再確認するとともに、調べるためのコツが理解できたという意見が多数寄せられた。



平成25年度第3回図書館（室）実務研修

日 時：平成26年 1月17日（金） 10時00分～16時00分

場 所：高崎市立中央図書館 3階 第4会議室

参加者：61名（講義⑤41名、講義⑥50名、講義と図書館見学49名）

講 義：講義⑤「図書館における危機管理入門」

手嶋 孝典 氏（元・町田市立中央図書館長）

講義⑥「これからの図書館と電子書籍」

小川 健 氏（富士通株式会社ソリューション推進部）

講義と図書館見学「県内の図書館を知ろう！ 第2回 高崎市立中央図書館」

横手 卓敏 氏（高崎市立中央図書館長）

《概 要》

講義⑤「図書館における危機管理入門」

講師：手嶋 孝典（元・町田市立中央図書館長）



講義前半は、長年館長を務めてきた経験から迷惑行為や災害など危機管理に対する基本的なスタンスについてお話していただいた。講義後半、参加者がグループに分かれてお互いに意見交流を行うことで、図書館における危機管理の基本的なスタンスについて共通認識した。

《参加者の意見等》

「困る事例が発生したときに、この研修内容を参考にしたい」など、危機管理について見識が広がったと好評であった。

《概 要》

講義⑥「これからの図書館と電子書籍」

講師：小川 健（富士通株式会社ソリューション推進部）

クラウドや電子書籍、次世代OPACなどについて、初心者向けに分かりやすく講義していただいた。

《参加者の意見等》

公立図書館と電子書籍の今後を考えていくことは、関心が高く、参考になったという意見が多かった。



《概 要》

講義と図書館見学 「県内の図書館を知ろう！ 第2回 高崎市立中央図書館」

講師：横手 卓敏（高崎市立中央図書館長）

リニューアルされたばかりで、ICタグなど最新式のシステムを導入している高崎市立中央図書館についての説明と施設見学が行われた。参加者は3班に分かれて職員の方に引率していただき、館内の配架の状況や予約本の受取自動化などを見学した。



平成25年度第1回図書館（室）職員専門研修

（群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催）

テーマ：「電子コンテンツの動向」

日時：平成25年9月12日（木）13時30分～16時30分

場所：群馬大学理工学図書館 多目的ホール

参加者：41名（大学図書館17名、公立図書館13名、高校図書館11名）

講演：「電子コンテンツの動向 本と図書館の未来を考える」

専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科 教授 植村 八潮 氏

《概要》

2010年の電子書籍ブーム以来、「電子書籍」という言葉が一般化して、今では特別の注釈なく用いられている。市場創出や利便性の向上という点からも新たな世界に期待が高まっている。では、長い間、印刷書籍が果たしてきた役割は、電子に置き換わっていくのだろうか。学術情報流通に加え、教科書など教育における役割はどうなっていくのか。環境変化の中で図書館に期待される役割とは何か。電子コンテンツの中でも電子書籍を中心に、本と図書館の未来について考える内容であった。



（会場・理工学図書館）



（末松大学図書館協議会長）



（植村講師）



（講義風景）



《参加者の意見等》

「参考になった」「専門的な分野の話を知ることができた」との感想が多く概ね好評であったが、中には「難しかった」「勉強不足を感じた」など、やや高度な内容と感じた受講者もいたようである。講師については、「身近な話題と重ねて話され、わかりやすかった」「話し方を含めて面白く聞いた」との好意的な意見が多く寄せられた。内容としては、「それぞれの国における背景などを知ることによって、電子コンテンツをめぐる動向に興味深く面白いと感じることができた」「ペーパーメディアではなくなるが文字は残る、というのは大変印象的だった」との感想があり、電子コンテンツに対して新しい視点をえた受講者もいたようである。講演終了後には理工学図書館の見学が行なわれ、ラーニングcommonsや改修後の利用状況について多くの質問が寄せられた。

平成25年度第2回図書館（室）職員専門研修

（群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催）

テーマ：「ラーニングコモンズの利用事例」

日時：平成26年3月14日（金）13時30分～16時30分

場所：高崎経済大学図書館ホール

参加者：23名（大学図書館21名、公立図書館1名、高校図書館1名）

講演：「ラーニングコモンズの利用事例」

共愛学園前橋国際大学図書館長 教授 後藤 さゆり 氏

《概要》

近年、ラーニングコモンズという学習環境への関心が高まっている。そこで、共愛学園前橋国際大学の「KYOAI COMMONS」の実践を事例として、ラーニングコモンズ設置の課題について議論を深めた。背景には、高等教育における学びの質的転換がある。学生の能動的な学習およびそれを取り込んだ授業であるアクティブラーニングを支援するラーニングコモンズが有効に活用されるためには、大学のカリキュラムとの連携が不可欠である。また、ラーニングコモンズでは従来の図書館機能を越えたサービスの提供を必要とするため、整備するためには人的サービスも含めたシステムを整備することが大きな課題である。



（会場・高崎経済大学図書館）



（後藤講師）



（末松大学図書館協議会長）



（講義風景）



（質疑応答）



《参加者の意見等》

「（ラーニングコモンズを）導入する際の参考になった」「実践例が伺えてよかった」「県内の大学の事例なので刺激になった」との感想が多く、たいへん好評だった。ラーニングコモンズの整備については、「大学全体でとりくみ、考える事だと感じた」「大学全体の協力が必要」との感想が多く、図書館だけにとどまらず、大学関係者に広く聴いていただくべき講演であったと感じた。また、「KYOAI COMMONS」が先進的な事例であったためか、「自分の大学では（ラーニングコモンズの導入は）難しそう」との感想を寄せた受講者が数名あった。「入れ物や場の提供だけでは、ラーニングコモンズがアクティブラーニングにつながらないということがよくわかった」というのが、今回の講演会を象徴する感想だったと思う。講演終了後には高崎経済大学図書館の見学が行なわれた。

平成25年度群馬県公共図書館協議会 (市町村立図書館・公民館図書室運営研究部会)

日 時：平成26年3月6日(木)

会 場：群馬県立図書館 3階 ホール

参加者：18人

講 演：「図書館友の会全国連絡会の活動から見てきたこと」

図書館友の会全国連絡会 代表 福富 洋一郎 氏

《概要》

講師が代表を務める図書館友の会全国連絡会（図友連—とともれん）とは、個人・グループが交流し、知恵を出し合い、支えあって理想とする図書館づくりを進めていくためのネットワークである。図書館とは、すべての人々に、本を読む楽しみ、知る喜びを豊かに与えてくれ、知る自由、学ぶ権利を保障し、暮らしの中で感じた疑問や仕事や学習などの情報を提供し、生きる力を支えてくれる拠り所であるという理念のもとに、その大切な図書館に心を寄せ、守り育てていこうとしている図友連の市民やグループが、全国各地至る所にたくさん生まれ、活動している。

今、大きな話題となっている公共図書館の問題は、①佐賀県武雄市図書館問題 ②指定管理者制度の弊害の問題 ③「アンネの日記」「はだしのゲン」の問題と三つあるが、特に武雄市については、昨年4月に指定者管理制度を導入するとともに大幅なりニューアルを行い、マスコミでも話題になったことは記憶に新しい。

特に問題視されているのは、武雄市図書館が「公立図書館」ではなく、「書店カフェ図書館（読書アミューズメント施設、公式民営ブックカフェ）」であるという真実である。図書館を取り巻く市民運動も活発化していることより、今後の図書館運営に関し注意を払いたいと思う。

今後の公立図書館の望ましい姿としては、2011年5月23日採択の「私たちの図書館宣言」の7項目に基づき、情報開示と市民参加を更に推し進め、読者であり利用者であり主権者としての市民とともに、理想の図書館を目指して活動を続けて行くことであると考える。



平成25年度群馬県公共図書館協議会 (地域資料・レファレンス研究部会)

日 時：平成25年12月19日(木) 13:00~16:00

会 場：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：63名

講 演：「レファレンスの基礎から中級へ ~すぐに使えるレファレンスの実践~」

星野 盾 氏 (日本図書館協会 認定司書)

《概要》

沼田市立図書館に長い間勤務した経験を持ち、日本図書館協会の認定司書でもある星野盾氏を講師に迎え、一步踏み込んだレファレンス研修を行った。

すぐにでも使える情報サービスでのスキルや情報検索のコツや情報サービスの心得、スキルアップの方法を自らの経験を盛り込みながらお話しいただいた。

情報検索では、図書館システムの検索に加え、インターネットの検索の時に気をつける点も教えていただき、とても参考になった。また、情報サービスにおけるポイントとして、ツール利用の重要性やブラウジングのコツ、外部協力の必要性を挙げていただいた。

自館の資料だけで解決できない場合は、どんなに難しいレファレンスであってもあきらめず、専門機関や他の図書館の協力を仰ぐことも必要だということを学んだ。

最後に、レファレンスで重要なこととしてチームで対応するという点をお話いただいた。各図書館の職員がチームとしてレファレンスに対応することが重要であり、そのためにもそれぞれの図書館の職員が個々にスキルアップする必要があるということを感じた。

研修テーマにあるように、どれを取ってもすぐにでも使えるような内容であり、アンケート結果から見ても満足度の高い研修となったと思う。

内容の濃い研修だったこともあり、時間が足りなかったという部分は反省点として今後に活かしていきたい。



平成25年度群馬県公共図書館協議会（児童・青少年サービス研究部会）

日 時：平成26年3月11日（火）

会 場：群馬県立図書館 3階 ホール

参加者：19名

講 演：「児童サービスの実際・・・物語を選ぶ」

浦安市立中央図書館 資料第一係長 司書 伊藤 明美 氏

* 当初2月19日（水）に高崎市立図書館で予定をしていたが、14日～15日の大雪の影響により3月11日に延期した。

《概要》

講師の伊藤さんからは、浦安市立図書館の児童サービスについて、選書の方法、古典児童文学の再評価等の児童サービスを考える上での基礎をお話しいただいた。

浦安市立図書館の児童サービスについては、「図書館の中で子どもが借りに来るのを待っているのではなくてこちらから出向いて子どもたちに楽しい本の時間を共有して図書館に興味を持ってもらえることを目的としている」や「児童に関わる図書館員に一番大切なのがフロアワーク」など基本的な事柄だが、県内の児童サービスでは見られない考え方や実践例を紹介してもらった。

絵本についても、スタンダードなものを大切に選書をして行くことや、『宝島』を読みどのような印象を持ったかなど、ワークショップも取り入れた充実した研修となった。

《参加者の意見等》

- ・フロアワークの重要性については耳の痛い話でした。どうしたら自分の館に活かせるのか考えさせられました。宝島についてもとても良く読みこまれていて、かつ時代背景まで熟知されていて、それらの点を学ぶべきだと思いました。
- ・今までは事務的に子どもに本を勧めていましたが、今回の研修会に参加し、子ども一人一人のためにはどのような本を選んだらいいのか図書館員としてとても参考になりました。
- ・なかなか、触れることのない古典に触れられたのが良かった。

《研修の担当者から》

大雪での延期の影響や開催時期が年度末になってしまったためか、参加者は多いとは言えなかった。これは、今後の反省点として検討していきたい。今回の研修に関しては、密度の濃い研修を実施することができた。児童サービスには様々なアプローチの仕方があり、先進的な図書館の事例をいくつも角度を変えてこの研究部会で紹介するよう、部会員で協議していきたい。



絵本の選書法や、絵本と子どもとのエピソードを語る伊藤さん。

平成25年度群馬県高等学校教育研究会図書館部会

1 総会及び講演会 平成25年5月1日(水) 県総合教育センター

諸報告、計画案、

司書研修会分散会報告

講演会 講師：足立幸子氏(新潟大学教育学部准教授)

演題：「中学生・高校生の読書の実態と学校における読書推進」

2 司書研修会

〈第1回〉平成25年7月1日(月) 県総合教育センター

分科会研修(9分科会に分かれて研修を行う)

群馬県高等学校図書館の歴史

CASA110番

「読書週間」活用法

授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～

著作権Q&A

利用者教育

分類

群馬県高等学校図書館チェックリスト

初心者研修

〈第2回〉平成25年10月21日(月) 県総合教育センター

(1) 分科会研修

①～⑨ 第1回と同様の内容にて実施。

(2) 分散会研修

①「ディスプレイ・展示・POPの実例について」

講師：蛭川幸則氏(株式会社煥乎堂 群馬町店店長・店売部課長)

②「伝統的な図書委員会活動」

講師：中山淳子氏(埼玉県立浦和西高等学校司書)

③「魅力ある雑誌や誌面づくりの方法論・技術論」

講師：生形勝喜氏(パリッシュ出版株式会社『月刊パリッシュ』編集長)

3 冬季研究大会並びに講演会 平成26年2月6日(木) 共愛学園前橋国際大学

(1) 読書感想文、感想画表彰式及び講評

(2) 司書研修会分科会報告、平成26・27年度司書研修委員委嘱

(3) 講演会

講師：熊倉浩靖氏(群馬県立女子大学教授・群馬学センター副センター長)

演題：「群馬を読む—歴史の謎を中心に—」

(4) 研究協議分散会

①「図書委員会活動の報告—放課後読書倶楽部(自称)について—」

報告者：諸星直美氏(群馬県立太田女子高等学校司書専門員)

②「高高の先を読むCSS読書活動」

報告者：渡辺正一氏(群馬県立高崎高等学校教諭)

③「『生徒にすすめたい本』ブックトーク～安中・富岡・甘楽地区職員研修の継続的な取り組み～」

報告者：柏木彰子氏(群馬県立富岡高等学校司書専門員)

平成25年度群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

- 1 総会並びに幹事会 平成25年5月30日(木) 玉村町文化センター
- 2 研究員会
 - 【第1回】 平成25年6月25日(火) 玉村町文化センター
 - テーマの決定：小学校「学校図書館の活用と読書活動の充実を目指して」
 - 中学校「学校図書館の利用指導の工夫」
 - 【第2回】 平成26年1月15日(水) 玉村町文化センター
 - 研究実践集録の作成並びに情報交換
- 3 第32回関東地区学校図書館研究大会(宇都宮大会)
 - 平成25年8月1日(水), 2日(木) 栃木県教育会館 他
 - ・大会主題「主体的な読書活動を支え、生きる力をはぐくむ学校図書館の創造」
～学校図書館の機能の充実と主体的・意欲的な活動の推進～
 - (発表者)
 - 「魅力ある案内による日常としての読書推進～その子のための1冊をさがす旅～」
高崎市立吉井中央中学校 教諭 松本 拓也
 - 「児童の意欲を大事にした自主的な活動の工夫～図書委員会活動の場を支援して～」
館林市立美園小学校 教諭 大西麻梨子
 - 「学校図書館運営における従事職員との連携」
前橋市立桃木小学校 教諭 田貝 実佳
- 4 群馬県学校図書館研究協議会(東毛大会)
 - 平成25年8月20日(火) 館林市文化会館小ホール
 - ・研究主題「読書に親しみ積極的に図書館を利用する児童生徒の育成」
 - 提案1「楽しい読書活動のために～図書館経営と図書委員会活動を通して～」
館林市立美園小学校 教諭 大西麻梨子
館林市立美園小学校 図書事務 大森 和子
 - 提案2「生徒が利用しやすい図書館づくり」
館林市立第二中学校 図書事務 大久保育代
 - 記念講演 「おはなしコンサート」
講師 朗読：島田えり子 様 ピアノ：崎山 淳子 様
バイオリン：渡辺 僚子 様 歌：田中由美子 様
- 5 第59回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会
 - 第1回 平成25年10月23日(水) 玉村町文化センター
 - 第2回 平成25年11月 6日(水) 玉村町文化センター
 - ※小学校(低・中・高)、中学校の各部より各3点、計12点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品
 - ※〈中学校 自由読書〉の部で、大泉町立南中学校 尾形 詩音 さんが「サントリー奨励賞」を受賞
- 6 第25回読書感想画中央コンクール群馬県審査会
 - 平成26年1月16日(木) 玉村町文化センター
 - ※小学校(低・高)、中学校の各部より各4点、計12点を県代表作品として「中央コンクール」へ出品
 - ※〈中学校 指定読書〉の部で、渋川市立渋川北中学校 増田 琴瀬 さんが「優秀賞」を受賞
- 7 部会誌「学校図書館54号」
 - 平成26年3月20日発行

平成25年度 読書感想画最優秀作品

小学校低学年

【自由読書の部】



【指定図書の部】

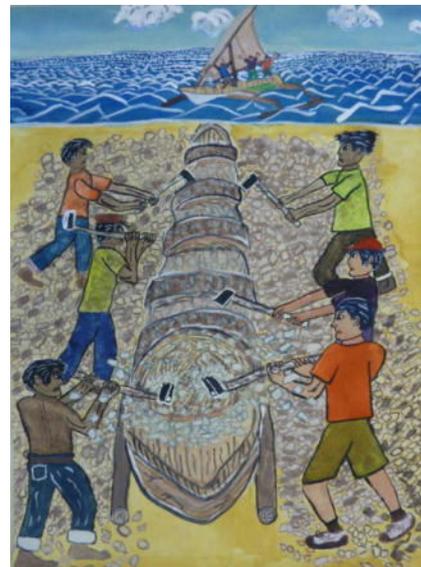


小学校高学年

【自由読書の部】



【指定図書の部】



中学校

【自由読書の部】



【指定図書の部】



平成25年度
群馬県図書館協会会報
NO. 8 (平26. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1
群馬県立図書館内

TEL 027(231)3008
FAX 027(235)4196